

事業成果報告書

〔取組Ⅰ〕 都道府県教育委員会による小中一貫教育推進に関する取組

1. 都道府県教育委員会名 : 熊本県教育委員会
2. 取組の名称 : 平成29年度小中一貫教育推進事業
3. 事業の実績

(1) 事業のねらい

小中一貫教育推進事業を通じて、子供の成長に応じた小・中学校間の円滑な接続のための取組を推進する。

県教育委員会では、小中一貫教育推進について、協力市町を指定し、小中一貫教育連絡協議会の開催、学校訪問等により市町教育委員会への指導、助言及び支援を行う。

委託を受けた市町の教育委員会は、小中一貫教育を推進するための体制の構築等、各地域の実情に応じて必要な取組を行うものとする。

※〔取組Ⅰ〕〔取組Ⅱ〕の両方を含む事業全体のねらいについて、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 事業の実施状況

【県教育委員会】

本事業を推進するに当たり、主に以下の取組を行った。

- ・小中一貫教育推進地区の指定（6月）を行った。
- ・小中一貫教育連絡協議会を開催（7月、12月）した。
- ・小中一貫教育フォーラムを開催（10月：参加者107名）した。
- ・実践事例集の作成、ホームページにて周知（2月）を行った。
- ・協力市町村教育委員会モデル校の訪問指導を行った。

【宇土市】

- ・年度当初に本年度の取組について、宇土市内の校長及び教職員等に周知を図った。
- ・中学校区ごとに、小中一貫教育の推進について協議した。
- ・宇土市小中一貫教育フォーラムを開催し、保護者や地域住民へ取組を報告した。

【宇城市】

- ・宇城市小中一貫推進計画を策定し、各小・中学校、地域住民へ周知した。
- ・ブロック毎に「～中学校区小中一貫推進プラン」を作成し、各中学校区の目指す子供像が共有され、具体的な実践を行った。
- ・小中一貫教育全員研修会やモデル校の実践発表をするなど、その成果を拡げる機会を設定した。

【玉名市】

- ・特色ある教育課程「玉名学」を完全実施した。併せて、英会話力を育てるE・E(エンジョイ・イングリッシュ)の活動も継続して取り組んだ。
- ・小中一貫教育フォーラムを開催し、小中一貫教育の意義を市内教職員へ周知した。
- ・小中一貫教育推進モデル地域において研究発表会を開催し、研究成果の普及、啓発を行った。

【和水町】

- ・小中一貫教育研究発表会を開催し3年間の取組の成果を県下に発表した。
- ・協働・協調的な学びを重視した共通の授業モデルによる授業実践を積み重ねてきた。
- ・小学校5、6年生の授業を中心に中学校の教員が乗り入れ授業を実施したり、小学校1年生から中学校3年生まで共通した授業モデルを構築したりし、共通実践を行った。

【八代市】

- ・市内の全小中学校をモデル校に指定し、全小中学校に小中一貫コーディネーターを位置付け、中学校区毎の実態に応じた取組を行ってきた。
- ・「やっしろスピリッツ」を基盤として、全中学校区で共通した7つの取組を実践してきた。
- ・1つの中学校区で研究発表会を実施し、モデル校の成果等を普及した。

※〔取組Ⅰ〕〔取組Ⅱ〕の両方を含む事業全体の成果について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(3) 事業の成果

- ・すべての市町村教育委員会（44市町村）から学校関係者が参加し、熊本県小中一貫教育フォーラムを開催したことで、小中一貫教育の必要性等について理解が深まった。また、年度末に指定地域の取組をまとめた「熊本県小中一貫推進事業実践事例集」を作成し、ホームページで掲載したことにより、具体的な実践等を結果に普及することができた。
- ・推進地域においては、全小中学校では推進計画等を作成し、コーディネーターを配置するなど組織的な取組が行われた。また、モデル校では、9年間を見通した特色ある教育課程の編成や具体的な指導方法等の研究が深まった。

※ [取組Ⅰ] [取組Ⅱ] の両方を含む事業全体の成果について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(4) 今後の取組予定

- ・県教育委員会としては、中学校区を単位としたコミュニティ・スクールや熊本版コミュニティ・スクールの導入など、9年間を見通して、学校、保護者、地域間で育成を目指す資質・能力や教育目標等を共有し、より広い地域からの組織的な学校支援体制を構築し、「地域とともにある学校づくり」を推進する。
- ・市内全校で導入がまだの地域は、全校導入に向けて取組を加速する。併せて、中学校区毎の推進状況の進捗を管理し、支援を行う。

※ [取組Ⅰ] [取組Ⅱ] の両方を含む事業全体の今後の取組予定について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

4. 取組Ⅰの実績

(1) 取組のねらい

小中一貫教育推進事業を通じて、子供の成長に応じた小・中学校間の円滑な接続のための取組を推進する。

県教育委員会では、小中一貫教育推進について、協力市町を指定し、小中一貫教育連絡協議会の開催、学校訪問等により市町教育委員会への指導、助言及び支援を行う。

※ [取組Ⅰ] において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 取組Ⅰの実施状況（平成29年度）

4月	小中一貫教育導入意向調査のまとめ
5月	委託市町村教育委員会、モデル校への情報提供 小中一貫教育事業の契約等の準備
6月	国と県の委託契約締結（6月2日） 県と協力市町との委託契約締結（6月29日）
7月	第1回小中一貫教育連絡協議会（7月10日） ・昨年度までの取組に関する成果、課題の情報共有、事例集作成に向けた準備
8月	協力市町教育委員会の進捗状況等の確認
9月	小中一貫教育フォーラム準備 協力市町教育委員会モデル校への訪問指導（宇城市立豊野小中学校：9月21日）
10月	小中一貫教育フォーラム開催（10月19日） （講演）熊本大学教育学部准教授 苫野一徳氏 等
11月	協力市町教育委員会モデル校への訪問指導（宇土市立網田小中学校：7日） （玉名市立岱明中校区：11月15日）（和水町立三加和小中学校：11月22日）

12月	協力市町教育委員会モデル校への訪問指導（八代市立第七中校区：12月1日） 第2回小中一貫教育連絡協議会（12月18日） ・3年間の取組に関する成果、課題の情報共有、事例集作成に向けた準備等
1月	事例集の修正等
2月	協力市町の成果報告書等の確認等 事例集の完成（ホームページにて公開）
3月	完了成果報告書等の作成、提出

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

(3) 取組の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育連絡協議会を年2回実施し、取組の成果と課題、今後の計画の確認、実践報告、協議等を行い市町村が円滑に小中一貫教育に取り組める体制を確立できるよう支援した。 ・小中一貫教育フォーラムを実施し有識者（大学准教授）の講演による最新の情報や市町教育委員会及びモデル校の担当者の実践発表を通じて、県内で小中一貫教育に取り組んでいる（取り組もうとしている）市町村教育委員会及び学校に情報提供を行った。 ・年度末に、3年間の取組をまとめた熊本県小中一貫教育推進事業事例集を作成し、ホームページに掲載した。また、通知文により、すべての市町村及び学校に活用の推進を周知した。
--

※〔取組Ⅰ〕において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(4) 今後の取組予定

<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区を単位としたコミュニティ・スクールや熊本版コミュニティ・スクールの導入など、9年間を見通して、学校、保護者、地域間で育成を目指す資質・能力や教育目標等を共有し、より広い地域からの組織的な学校支援体制を構築し「地域とともにある学校づくり」を推進する。 ・学力充実については、今後もより一層、小中の連携を充実させ、「徹底指導」と「能動型学習」とのめりはりをつけた熊本型授業の質を高めた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。小中だけでなく、幼・保等からの円滑な接続を目指し「『生きる力』の基礎」の育成を図る「新 肥後っ子がやきプラン」に沿った取組を推進する。 ・新たに小中一貫教育に取り組もうとする市町村教育委員会については、先進地域等の情報提供や教育課程編成等における指導・助言などの支援を行う。

※〔取組Ⅰ〕における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

5. 〔取組Ⅱ〕を実施した協力市町村教育委員会等

通し番号	教育委員会等の名称	
Ⅱ-1	宇土市教育委員会	
Ⅱ-2	宇城市教育委員会	
Ⅱ-3	玉名市教育委員会	
Ⅱ-4	和水町教育委員会	
Ⅱ-5	八代市教育委員会	

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。また、通し番号は、Ⅱ-1、Ⅱ-2、…とすること。

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－１

※都道府県教育委員会において記載すること

1. 協力市町村教育委員会等の名称 : 宇土市教育委員会

住所	:	宇土市新小路町95
代表者職・氏名	:	教育長 太田 耕幸

2. 取組の名称 : 宇土市教育委員会における小中一貫教育推進に関する取組

3. 取組の実績

(1) 取組のねらい

①小中一貫教育及びコミュニティ・スクールの導入により、児童・生徒が多様な地域人材、教職員及び児童・生徒と関わる機会を増やす。指導・支援体制を充実させることにより、一人一人の個性の伸長及び不登校や問題行動等の未然防止・解消を図る。

②小・中学校が、義務教育9年間の教育活動で果たすべき役割を認識し、小学校と中学校の教育課程の系統性を確保し、小学校から中学校への接続を円滑化する小中一貫教育を域内全域で進める。

※〔取組Ⅱ〕において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 取組の実施状況（平成29年度）

4月	
5月	
6月	本年度の取組の概要について、宇土市内の校長及び教職員等に周知し、共通理解を図った。中学校区ごとに、小中一貫教育の推進について協議した。（教頭、研究主任による校務会議の開催）
7月	中学校区ごとに、小中一貫教育の推進について協議した。（代表校長による校務会議の開催）
8月	中学校ごとに、小中一貫教育を推進するための授業研究会の事前研究会を実施した。宇城市・宇土市共催による小中一貫教育全員研修会を開催した。
9月	中学校ごとに、小中一貫教育を推進するための公開授業を開催した（鶴城中校区、網田中校区）。また、推進体制について協議する。
10月	各中学校区の小中一貫教育推進プラン作成のための担当者による校務会議を開催した。（各学校教務主任）

11月	中学校区ごとに、小中一貫教育を推進するための小中合同授業研究会を実施した(住吉中校区)。網田小、中学校において研究発表会を開催した。
12月	各中学校区の小中一貫教育推進プランの検討と次年度への方向性を確認した。
1月	本年度の取組の成果と課題について確認し、次年度の小中一貫教育の取組の準備を進めた。
2月	教務主任、小中一貫教育担当等の校務会議を開催する。宇土市小中一貫教育フォーラムを開催し、保護者や地域住民へ取り組みを報告する。
3月	校長会で、小中一貫教育とコミュニティ・スクールまたは熊本版コミュニティ・スクールとの一体的推進の取組の成果と課題について報告し、次年度への取組に繋げる。

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項(会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など)については、必ず記載すること。

(3) 取組の成果

- ・学校運営協議会の協力を得ることで、小中一貫教育の推進がなされた。
- ・宇城市と合同の全員研修会や、宇土市小中一貫教育フォーラムを開催したことで、小中一貫教育への理解や関心が高まった。
- ・モデル校において、乗り入れ授業等の工夫・改善がなされたことで、中学3年生の自己有用感に関わる意識が向上した。

※[取組Ⅱ]において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(4) 今後の取組予定

- ・3年目の取組をもとに、中学校区ごとの実態に応じた小中一貫教育とコミュニティ・スクールまたは熊本版コミュニティ・スクールとの一体的推進の取組を充実させていく。特に、教育課程や学習習慣(学習スタイル、家庭学習等)、生徒指導などの面において、系統性をもった指導を行っていく。

※[取組]における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－２

※都道府県教育委員会において記載すること

1. 協力市町村教育委員会等の名称 : 宇城市教育委員会

住所	: 宇城市松橋町大野 8 5
代表者職・氏名	: 宇城市教育長 平岡 和徳

2. 取組の名称 : 宇城市教育委員会における小中一貫教育推進に関する取組

3. 取組の実績

(1) 取組のねらい

宇城市全域 5 中学校区において、9 年間の義務教育における系統的・継続的な学びを通して、「確かな力」「豊かな心」「健やかな体」の育成を図る。児童生徒の発達の早期化に伴う精神的な揺れや「中 1 ギャップ」、学校現場の課題の多様化・複雑化等の教育課題が見られる中、その課題解決に向け、施設一体型小中一貫教育校（宇城市立豊野小・中学校）の成果を市内全域に拡げる。

※〔取組Ⅱ〕において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 取組の実施状況（平成29年度）

4月	
5月	○宇城市小中一貫教育推進計画の検討 ○「中学校区小中一貫推進プラン」（5ブロック）の検討
6月	○宇城市小中一貫教育推進計画の作成 ○「中学校区小中一貫推進プラン」の作成
7月	○宇城市小中一貫教育全員研修会の準備（全教職員対象、宇土市との合同開催） ○宇城市小中一貫・連携教育推進協議会の開催 ○各中学校区における授業実践 「中学校区小中一貫推進プラン」に沿った授業実践等
8月	○宇城市小中一貫教育全員研修会の実施（講演と 3 中学校区からの実践報告） 講師：千葉大学 特任教授 天笠 茂 氏 ○モデル校の実践発表
9月	○各中学校区における授業実践 「中学校区小中一貫推進プラン」に沿った授業実践等 ○事務補助による会計、文書処理、会議準備、書類整理等の業務開始（12月まで）
10月	○小中一貫教育に関するアンケート調査の実施（小6児童、中1生徒、教職員対象） ○熊本県小中一貫教育フォーラム参加，豊野小・中学校（モデル校）実践発表
11月	○各中学校区における授業実践 「中学校区小中一貫推進プラン」に沿った授業実践等

12月	○宇城市小中一貫教育推進計画の策定 ○宇城市小中一貫教育推進会議の実施 (宇城市小中一貫教育推進計画の周知, 意識調査結果報告, 本年度の総括・来年度への準備等の協議)
1月	○宇城市小中一貫教育推進計画概要版の作成・配付 ○第12回小中一貫教育全国サミットin京都視察研修(3名参加)
2月	○宇城市小中一貫・連携教育推進協議会の開催 (本年度の総括・次年度の方向性等を協議)
3月	○研究のまとめ (各中学校区実践のまとめの配付)

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項(会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など)については、必ず記載すること。

(3) 取組の成果

・宇城市小中一貫推進計画を策定し、各小・中学校、地域住民へ周知した。このことにより、「中学校区(ブロック)を実施主体とし、施設の立地条件や特性に合わせた推進を目指す」という方向性が明確になった。

・各ブロック毎に「○○中学校区小中一貫推進プラン」を作成した。このことにより、各中学校区の目指す子供像が共有され、具体的な実践が行われたことにより、市内全域での取組がより充実した。

・小中一貫教育全員研修会を実施し、宇城市の推進計画を共有するとともに、モデル校の実践発表をするなど、その成果を拡げる機会とした。参加者アンケートによると、96%が「理解が深まった」、90%が「今後の教育活動に活かそうである」と回答し、市内教職員の小中一貫教育の理解が深まった。

・意識調査の調査項目、考察及び活用方法を見直した。(中学校区毎の集計と考察、実施時期と活用の在り方等)

・意識調査において、小6「中学校への心配はない」の市全体の結果は、66%だった。(A中校区81%、B中校区55%、C中校区71%、D中校区82%、E中校区71%と差が認められ、ブロック毎に課題を共有・協議した。)※質問内容一部変更のため、前年度との比較なし。

※[取組Ⅱ]において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(4) 今後の取組予定

○宇城市小中一貫教育推進計画に沿った、宇城市全域においての宇城市型小中一貫教育の取組の推進・充実

- ・各小中学校の小中一貫教育コーディネーターの設置
- ・小中一貫教育推進会議の実施
- ・中学校区(ブロック)を実施主体とした取組の充実 等

○小中一貫教育と「熊本版コミュニティ・スクール」・「地域学校協働活動」等の事業を一体的推進するための体制の構築と教職員への研修会の実施。(社会教育と学校教育の連携)

※[取組]における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－3

※都道府県教育委員会において記載すること

1. 協力市町村教育委員会等の名称 : 玉名市教育委員会

住所 : 玉名市岩崎163番地

代表者職・氏名 : 教育長・池田 誠一

2. 取組の名称 : 玉名市教育委員会における小中一貫教育推進に関する取組

3. 取組の実績

(1) 取組のねらい

- ・小中一貫教育を推進するためランドデザインを活用し、保護者及び地域住民に周知を図る。
- ・特色ある教育課程「玉名学」を完全実施する。併せて、英会話力を育てるE・E(エンジョイ・イングリッシュ)の活動も継続する。
- ・小中一貫教育の取組等を協議する「小中一貫教育協力者会議」を開催し、各立場からの意見をいただき、本市の小中一貫教育の充実につなぐ。
- ・小中一貫教育フォーラムを開催し、小中一貫教育の意義を市内教職員へ周知する機会とする。
- ・小中一貫教育推進モデル地域において研究発表会を開催し、研究成果の普及、啓発を行う。

※〔取組Ⅱ〕において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 取組の実施状況(平成29年度)

4月		
5月		
6月	○第1回小中一貫教育研究推進校推進委員会(毎月開催) 16日(金)小中一貫教育モデル地域合同授業研修会(於:高道小)	「玉名学」実践 連携・協力
7月	4日(火)第1回小中一貫教育協力者会議開催 ○中1アンケート実施(6中学校対象)	
8月	21日(月)・22日(火)第5回小中一貫教育フォーラム開催(教職員対象) 講師:二宮 肇美 校長(広島県呉市立蒲刈中学校)	
9月	○教育委員会だより作成準備	
10月	13日(金)玉名学「礼節」6年授業公開(於:築山小) 19日(木)熊本県小中一貫教育フォーラム参加(対象校5校+市教委1人) 24日(火)第2回小中一貫教育コーディネーター研修	

11月	13日(月)玉名学「探究」1年授業公開(於:天水中) 15日(水)小中一貫教育推進モデル地域研究発表会(4小1中) 講師:天笠 茂氏(千葉大学特任教授) 29日(水)玉名学「探究」6年授業公開(於:玉名小)	
12月	○教育委員会だより作成準備	
1月	15日(月)第2回小中一貫教育協力者会議開催 25日(木)・26日(金)第12回小中一貫教育全国サミット(京都市)参加(6人)	
2月	8日(木)第3回小中一貫教育コーディネーター研修 ○教育委員会だより発行・配付 ○玉陵中学校区グランドデザイン作成・配付(玉陵小学校開校に伴う)	
3月	○小6アンケート実施(21小学校対象)	↓

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項(会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など)については、必ず記載すること。

(3) 取組の成果

- 小中一貫教育に関する啓発を行い、理解が進んできた(教職員対象のフォーラムの実施、玉名学公開授業の実施、市内小中学校に保護者・地域住民向け啓発プレゼンテーション資料の配付)。
- 研究成果の普及、啓発ができた(モデル地域である岱明中学校区4小1中における研究発表会の開催)。
- 各中学校区において、目指す子ども像の実現に向けて学習及び生徒指導の共通実践事項を明確化し、取組の充実を図った。
- 系統的に9年間で学ぶ「玉名学」を完全実施し、学校化を図った。
- E・E(エンジョイ・イングリッシュ)の活動を継続したことで、小学生の英語への慣れ親しみ、英会話力の素地が育ってきた。
- 小中一貫教育チェックリストによる評価で向上した項目は次のとおりである。
 - ・実態と課題の把握共有
 - ・推進委員会組織の編成
 - ・各部会での小中合同授業研究会や授業参観、交流活動の検討
 - ・小中一貫して取り組む内容の検討と具体的実践等
- 中学校生活に対する小中学生へのアンケートを実施。「学校は楽しい」94.1%(昨年度比0.7%増)、「中学校への不安はなくなった・なかった」94.4%(昨年度比3.7%増)等、小中の滑らかな接続が図られてきた。

※[取組Ⅱ]において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(4) 今後の取組予定

- ・小中一貫教育に対する保護者及び地域住民の理解促進(各中学校区グランドデザインの活用、学校便り、授業公開、啓発プレゼンテーション資料の活用等)と検証、評価
- ・第6回小中一貫教育フォーラムの開催
- ・小中一貫教育コーディネーター研修の実施(年3回)
- ・各中学校区で目指す子ども像の明確化と共通実践事項の充実
- ・小中一貫教育推進のためのチェックリストを活用した取組の検証、評価
- ・特色ある教育課程「玉名学」の学校化の推進と目標の具現化
- ・E・E(エンジョイ・イングリッシュ)の継続による英会話力の向上
- ・「玉名学」の完全実施と小中一貫教育の推進状況の関係についての検証

※[取組]における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－４

※都道府県教育委員会において記載すること

1. 協力市町村教育委員会等の名称 :

住所	熊本県玉名郡和水町 江田 3 8 8 6 番地
代表者職・氏名	和水町教育長 小出 正泰

2. 取組の名称 : 小中一貫教育推進事業

3. 取組の実績

(1) 取組のねらい

教育目標である「確かな学力の定着と豊かな心、たくましい心身の育成を図り生きる力を身につけた児童生徒の育成」を実現するために、学力向上と中一ギャップの解消の取組を実施する。

また、小中一貫教育を推進する上で、実践・実績が豊富に積み重ねられている先進地を教職員が研修することで三加和小中学校の教育方針に役立てる。

小中一貫教育研究発表会を開催することで、3年間の取組の成果を県下に発表する。

※〔取組Ⅱ〕において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 取組の実施状況（平成29年度）

4月	第1回小中合同校内研修	小中合同企画会
5月	第2回小中合同校内研修	小中合同企画会
6月	第3回小中合同校内研修 第1回三加和小中学校地域づくり協議会開催	小中合同企画会
7月	第4・5回小中合同校内研修 平成29年度和水町教職員研修会（講師：熊本大学教育学部教授 古賀倫嗣 先生） 熊本県小中一貫教育推進事業連絡協議会（第1回）への参加	小中合同企画会
8月	第6回小中合同校内研修 研究発表会指導案検討会	小中合同企画会
9月	第7・8回小中合同校内研修 臨時小中合同校内研修 キャリア教育実践（中2：職場体験学習）	小中合同企画会
10月	第9・10回小中合同校内研修 臨時小中合同校内研修 平成29年度熊本県小中一貫教育フォーラムへの参加 研究発表会分科会打ち合わせ	小中合同企画会

11月	第11・12・13回小中合同校内研修 小中合同企画会 小中一貫教育研究発表会視察（長崎野母崎小中学校） 宇土市立網田小中学校研究発表会への参加 小中一貫教育研究発表会視察（玉名市立岱明中学校） 三加和小・中学校 小中一貫教育研究発表会開催 研究紀要作成
12月	キャリア教育実践（小5：職業調べ） 小中合同企画会 熊本県小中一貫教育推進事業連絡協議会（第2回）への参加
1月	第14回小中合同校内研修 小中合同企画会 小中一貫教育全国サミットin京都への参加 小中一貫教育だよりの発行 キャリア教育実践（中1：職場訪問学習）
2月	第15回小中合同校内研修（キャリア教育 講師 南関第三小 大木洋一郎 校長） 小中合同企画会 教育課程研究指定校事業研究協議会への参加 視察の受け入れ（湯前町教育委員会）
3月	第16回小中合同校内研修 小中合同企画会 第2回三加和小中学校地域づくり協議会開催

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

(3) 取組の成果

○協働・協調的な学びを重視した共通の授業モデルによる授業実践を積み重ねることで、積極的に話し合いに参加したり発言したりする児童生徒が増えた。また、学級担任と中学校教員のTTによる乗り入れ授業を行ったことで学びにおける小中の段差を軽減することができた。

○レジリエンスの授業や異学年交流の取組を通して自尊感情が高まってきた。また、ペアトークやグループでの話し合い活動に積極的に取り組んだことで、コミュニケーションスキルに高まりが見られた。

※[取組Ⅱ]において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(4) 今後の取組予定

モデル校においては、この3年間、中1ギャップの解消や表現力の向上を目指して、指導体制や共通の授業スタイルの確立等を図り、一定の成果を上げてきた。しかし、地域や児童生徒の実態に即した9年間を貫く学習を計画し、実践するところまでは至っていない。今後は、総合的な学習の時間の一部を活用して、9年間を貫く学習を設定・実施したいと考えている。

※[取組]における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

事業成果報告書

[取組Ⅱ] 市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ-5

※都道府県教育委員会において記載すること

1. 協力市町村教育委員会等の名称 : 八代市教育委員会

住所	: 八代市千丁町新牟田1502-1
代表者職・氏名	: 八代市教育長 北岡 博

2. 取組の名称 : 八代型小中一貫・連携教育

3. 取組の実績

(1) 取組のねらい

「八代型小中一貫・連携教育」の定義 子どもたちの「生きる力」を育むため、義務教育9年間を見通した小中共通の目標（めざす子ども像等）、指導内容及び指導方法等を共有し、中学校区の実態に応じて、小中相互に連携・交流し合いながら、育ちと学びの連続性を図る教育。

※[取組Ⅱ]において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 取組の実施状況（平成29年度）

4月	19日（水）龍峯小、坂本中、第五中を訪問し、八代市に初めて来られた校長先生に「八代型小中一貫・連携教育」について説明 ※各中学校区における取組
5月	12日（金）小中一貫コーディネーター研修会 15日（月）文政小を訪問し、校長先生に「八代型小中一貫・連携教育」について説明 ※各中学校区における取組
6月	※各中学校区における取組
7月	10日（月）熊本県小中一貫教育推進事業連絡協議会（第1回） 21日（金）第1回八代市小中一貫・連携教育推進協議会 ※各中学校区における取組
8月	30日（水）エフエムやつしろ「やつしろインフォメーション」 ※各中学校区における取組
9月	※各中学校区における取組
10月	1日（日）広報やつしろ10月号「八代型小中一貫・連携教育～『めざす子ども像』を実現するために～」 19日（木）熊本県小中一貫教育フォーラムにおいて、八代市教育委員会の取組について実践発表を行った。 27日（金）平成27～29年度文部科学省教育課程特例校（小学校英語教育）及び施設一体型小中一貫校自主公開授業（泉小中） ※各中学校区における取組
11月	1日（水）「八代型小中一貫・連携教育」に係る意識調査（基準日） ※各中学校区における取組

12月	1日(金)「八代型小中一貫・連携教育」実践校公開授業研究会(郡築小、昭和小、第七中) 18日(月)熊本県小中一貫教育推進事業連絡協議会(第2回) ※各中学校区における取組
1月	23日(火)第2回八代市小中一貫・連携教育推進協議会 25日(木)26日(金)第12回小中一貫教育全国サミットin京都 ・松高小、郡築小、第二中、第五中、第八中、二見中、坂本中、千丁中、学校教育課から1名ずつ計10名参加 ・分科会:《第2分科会》英語教育を軸とした小中一貫教育 発表者:八代市立泉中学校 研究テーマ:「小学校と中学校の9年間をつなぐ英語教育～小中一貫校の特色を生かして～」 ※各中学校区における取組
2月	「八代型小中一貫・連携教育」に係る意識調査の集計結果について(通知) 「平成29年度八代型小中一貫・連携教育総括集」を全学校に配付 ※各中学校区における取組
3月	※各中学校区における取組

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項(会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など)については、必ず記載すること。

(3) 取組の成果

平成29年度「八代型小中一貫・連携教育」に係る意識調査の集計結果から

○「やつしるスピリッツ：話す人の顔を見てしっかり話を聴いていますか」という問いに、自信をもって「はい」と答えた小6は8.3ポイント増え43%に、中1は3.0ポイント増え32.5%になった。

○「やつしるスピリッツ：靴のかかとを靴箱の手前のへりにそろえていますか」という問いに、自信をもって「はい」と答えた小6は8.5ポイント増え70.9%に、中1は1.4ポイント増え76.4%になった。

※【取組Ⅱ】において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(4) 今後の取組予定

【平成30年度】

☆「八代型小中一貫・連携教育」実践校公開授業研究会

○5月 小中一貫コーディネーター研修会

○11/1(木)「八代型小中一貫・連携教育」に係る意識調査(基準日)

○2月 平成29年度「八代型小中一貫・連携教育」総括集

◇小中合同研修会

◇相互乗り入れ授業

◇情報交換会

◇小中合同行事

◇小学校高学年による中学校体験活動

◇児童会、生徒会の交流活動

◇小中連携PTA活動

◇住民自治との連携

※【取組】における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。